

達人診断

超簡単入力マニュアル

VER. 5.01 (2021.4)

©(株)えびす建築研究所

- | | | |
|------------------|-------------------------|-----------------|
| 1. 作業フォルダーの作成 | 11. 窓・ドアの入力 | 20. 耐力要素の仕様変更 |
| 2. 達人診断の起動 | 12. 壁の劣化程度の設定 | 21. 柱接合部の補強 |
| 3. 建物概要フォームへの入力 | 13. 柱の入力 | 22. 耐力要素のユーザー定義 |
| 4. 現況診断用の劣化度入力 | 14. 耐力要素を表示 | 23. 特殊な補強要素の入力 |
| 5. マニュアル等の表示 | 15. 別の建物ファイルを開く | 24. 補強要素の強調表示 |
| 6. CAD入力フォームについて | 16. 診断書の出力 | 25. 概算コストの表示 |
| 7. 外周（ライン）の入力 | 17. 補強診断用の劣化度入力 | 26. プレゼンシートの作成 |
| 8. 用途（部屋）の入力 | 18. 補強モードへの移行 | 27. 概算コスト資料の作成 |
| 9. 面材要素の入力 | 19. 補強時の耐力要素の入力：
A工法 | |
| 10. 筋かいの入力 | | |

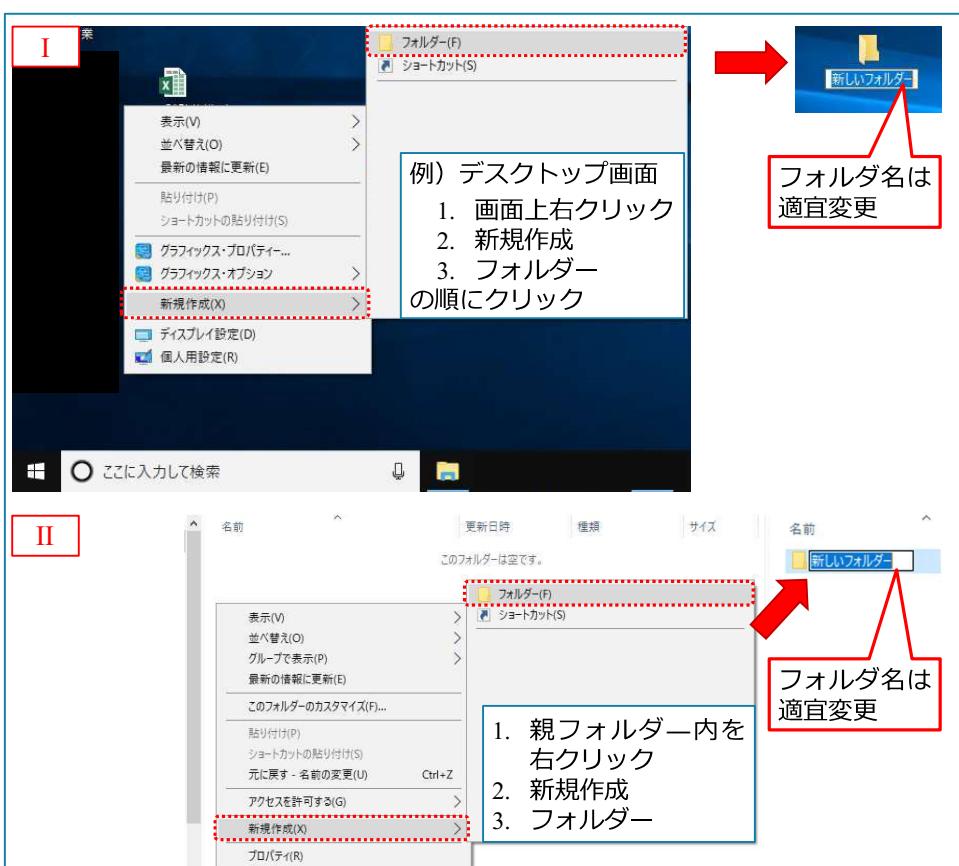
達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

1

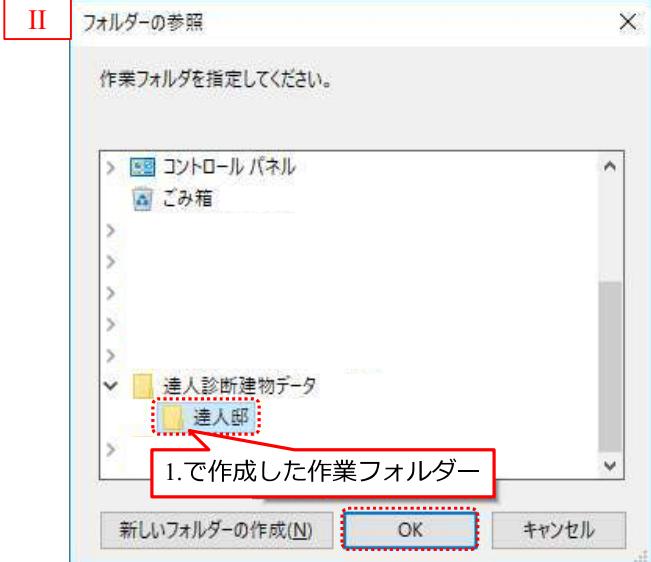
1. 作業フォルダーの作成

流れ

- I. 適当な場所（例：デスクトップ等）にフォルダー（“親フォルダー”という）を作成
- II. 親フォルダー内に各建物のデータを保存するフォルダー（“作業フォルダー”という）を作成



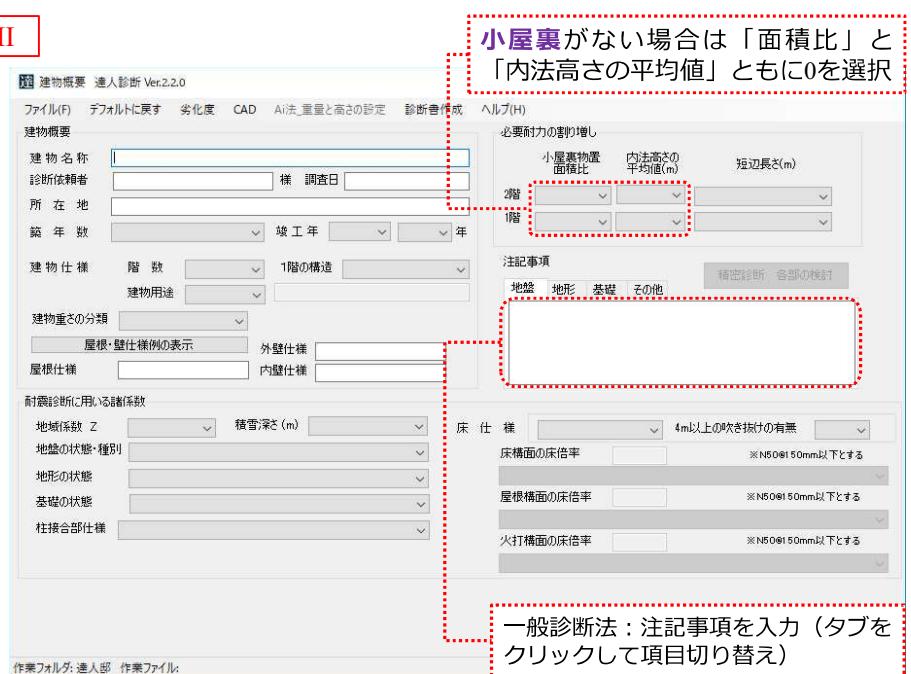
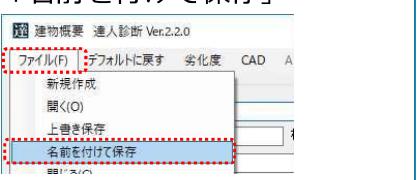
2. 達人診断の起動

流れ	
I. 達人診断のショートカットアイコンをダブルクリックして達人診断を起動 ※ 起動時、「ユーザー アカウントの制御ダイアログボックス」で[はい]を選択すると起動	  <p>起動時、『スプラッシュウィンドウ』が現れる</p>
II. 「フォルダーの参照ダイアログボックス」で作業フォルダーを指定し、[OK]をクリック	

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

3

3. 建物概要フォームへの入力

流れ	
I. 「ナビゲーション ウィンドウ」で診断法を選択	 <p>小屋裏がない場合は「面積比」と「内法高さの平均値」とともに0を選択</p>
II. 建物情報を入力	 <p>一般診断法：注記事項を入力（タブをクリックして項目切り替え）</p>
III. [ファイル(F)]で「名前を付けて保存」	 <p>小屋裏物置面積比：小屋裏や天井裏に物置・収納等（内法高さの平均値1.4m以下）がある場合、床面積に応じた必要耐力の割増を行う。 ※達人診断では「当該階の床面積に対する物置の床面積の割合」を選択</p>

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

4

3. 建物概要フォームへの入力（用語解説）

築年数：築年数（築10年未満／以上）を選択する。築年数により一般診断の「劣化度チェックシート」の調査項目が異なる。
※ 劣化度チェックシートでは、劣化が認められる項目にチェックを入れていき、一般診断の劣化低減係数を算出する（→4節）

建物重量：屋根・壁の仕様に基づいて分類された3種から建物重量を選択する。

	軽い建物	重い建物	非常に重い建物
屋根	石綿スレート葺 鉄板葺	桟瓦葺	土葺瓦屋根
外壁	ラスモルタル壁	土塗壁	土塗壁
内壁	ボード壁	ボード壁	土塗壁

短辺長さ：建物の各階の短辺長さを設定する。

短辺長さによる必要耐力割増係数			
	4m未満	4m以上6m未満	6m以上
簡易法	1.13		1.0
簡易法以外	1.3	1.15	1.0

築年数

築年数	▼
建物仕様	築10年未満 築10年以上

建物重量

建物重さの分類	▼
屋根・壁	軽い建物 重い建物 非常に重い建物

達人診断では、“建物重さの分類”という見出し名

短辺長さ

短辺長さ(m)	▼
4m未満 4m以上6m未満 6m以上	

3. 建物概要フォームへの入力（用語解説）

積雪深さ：多雪区域では積雪荷重による必要耐力の割増を行う。
※ 各県・市町村公表の「垂直積雪量」を設定する
※ 雪下ろしを行う場合は「1m」を選択可能

地盤の状態：当該建物が建っている地盤の状態を選択する。

地盤種別：当該建物が建っている地盤種別を選択する。

軟弱地盤割増：当該区域が**非常に悪い地盤**である場合に「1.5」を選択し、必要耐力を1.5倍する。

地盤の状態	判断基準	地盤種別
よい・普通	洪積台地または同等以上の地盤	第1種
	設計仕様書のある地盤改良	
	長期許容地耐力50kN/m ² 以上	
	下記以外	
悪い	30mよりも浅い沖積層（軟弱層）	第2種
	埋立地および盛土地で大規模な造成工事（転圧・地盤改良）によるもの（宅地造成等規制法・同施行令に適合するもの）	
	長期許容地耐力20kN/m ² 以上50kN/m ² 未満	
非常に悪い	海・川・池・沼・水田等の埋立地および丘陵地の盛土地で小規模な造成工事によるもの（軟弱な地盤）	第3種
	30mよりも深い沖積層（軟弱層）	
	液状化の可能性がある地盤	

積雪深さ

積雪深さ(m)	▼
無し(1m未満) 1.00m 1.10m 1.20m 1.30m 1.40m 1.50m 1.60m 1.70m	

達人診断では、リストから積雪深を選択

地盤の状態_地盤種別(軟弱地盤割増)

地盤の状態・種別	▼
地形の状態	よい・普通の地盤 第1種(1.0) よい・普通の地盤 第2種(1.0)
基礎の状態	悪い地盤 第2種(1.0) 悪い地盤 第3種(1.5)
柱接合部仕様	非常に悪い地盤(表層の地盤改良を行っている) 第2種(1.5) 非常に悪い地盤(表層の地盤改良を行っている) 第3種(1.5) 非常に悪い地盤(杭基礎である) 第2種(1.5) 非常に悪い地盤(杭基礎である) 第3種(1.5) 非常に悪い地盤(特別な対策を行っていない) 第2種(1.5) 非常に悪い地盤(特別な対策を行っていない) 第3種(1.5)

項目の意味は以下の通り：
地盤の状態_地盤種別(軟弱地盤割増)

3. 建物概要フォームへの入力（用語解説）

地形の状態：当該建物が建っている地形を選択する。

基礎の状態：基礎の種類と状態を選択する。

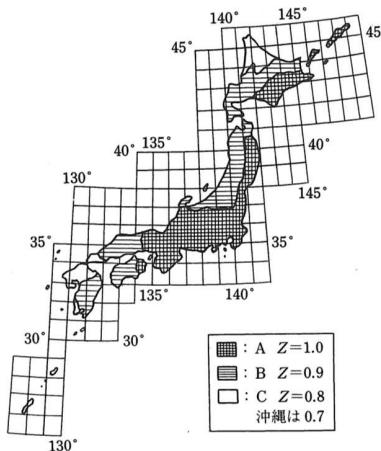
※ ひび割れの判断基準：一般には0.3mm程度

※ 軽微なひび割れのある無筋コンクリート基礎の定義：
床下換気口隅角部に0.3mm程度以下のひび割れが発生しているが、基礎全体は健全な状態

基礎形式：基礎の状態に応じて定められている仕様。

地域係数：「地域毎の地震による震害の程度」や「地震活動状況」等により、0.7～1.0の範囲内で定められた係数。

※ 静岡県は独自の指針により1.2とすることを求めている



地形の状態

地形の状態

平坦・普通(健全)

がけ地・急斜面(コンクリート擁壁)

がけ地・急斜面(石積)

がけ地・急斜面(特別な対策を行っていない)

基礎の状態

基礎形式

基礎の状態

柱接合部仕様

- I : 鉄筋コンクリート基礎(健全)
- II : 鉄筋コンクリート基礎(ひび割れが生じている)
- III : 無筋コンクリート基礎(軽微なひび割れが生じている)
- IV : 無筋コンクリート基礎(ひび割れが生じている)
- V : 玉石基礎(RC底盤設置し足固め等緊結)
- VI : 玉石基礎(足固めあり)
- VII : 玉石基礎(足固めなし)
- VIII : その他(ブロック基礎等)

基礎形式(I, II, III)は、基礎の状態の選択により自動的に決まる

地域係数

地域係数 Z

0.7

0.8

0.9

1.0

1.1

1.2

1.1, 1.2 : 設計者の判断で必要耐力を割り増すためのもの

3. 建物概要フォームへの入力（精密診断のみ）

流れ

- I. 「ナビゲーションウィンドウ」で「精密診断法1(精算法)」または「精密診断法1(Ai法)」を選択
- II. 「劣化程度の設定ダイアログ」で「壁部材の劣化程度」を選択
- III. 追加で必要となる項目を設定
 - 各水平構面の倍率設定
 - 各部の検討
- IV. 建物概要フォームに戻り「名前を付けて保存」または「上書き保存」

劣化の程度	調査結果の例
①	<ul style="list-style-type: none"> 腐朽・蟻害・虫害が認められない ドライバーが部材表面を傷つける程度である
②	<ul style="list-style-type: none"> 部分的に腐朽・蟻害・虫害が認められる ドライバーが劣化が認められない場合に比べ多少小さい抵抗で刺さる
③	<ul style="list-style-type: none"> 全断面に及ぶような腐朽・蟻害・虫害が認められる ドライバーが簡単に深く刺さる

床仕様	4m以上の吹き抜けの有無	各水平構面の倍率設定
床構面の床倍率		
屋根構面の床倍率	※N50@150mm以下とする	
火打構面の床倍率	※N50@150mm以下とする	

各部の検討を入力（タブをクリックして項目切替）

精密診断法1における各部の検討

概要フォームに戻る データの初期化

地盤 基礎 水平構面の損傷 構架材接合部

注記事項	精密診断 各部の検討	問題有り
地盤 地形 基礎 その他		<input type="checkbox"/> 敷地が傾斜地で、敷地内
		<input type="checkbox"/> 建物周囲に、1.5m以上の持続的
		<input type="checkbox"/> 付近は液状化の可能性がある
		<input type="checkbox"/> 田畠の造成地で、造成後5年以内
		<input type="checkbox"/> 海辺・海岸・河川・川辺地帯

各部の検討を入力するフォームを開く

3. 建物概要フォームへの入力（精密診断のみ）

流れ																																																		
<p>I. 「ナビゲーションウィンドウ」で「精密診断法1(Ai法)」を選択</p> <p>II. 建物概要の[Ai法_重量と高さの設定]をクリック</p> <p>達人診断 Ver.2.2.0 デフォルトに戻す 変化度 CAD Ai法_重量と高さの設定</p> <p>III. 「建物重量と高さの設定」ダイアログで以下の項目を設定：</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部の単位重量 各階階高 建物高さ <p>IV. 建物概要フォームに戻り「名前を付けて保存」または「上書き保存」</p>	<p>III 建物重量と高さの設定</p> <p>概要フォームに戻る</p> <p>単位床面積当たりの重量(kN/m²)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>屋根</th> <th>外壁</th> <th>内壁</th> <th>床</th> <th>積載荷重</th> <th>階高[m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2階</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>建物高さ[m] 0</p> <p>住宅の簡易重量表(単位床面積当たり kN/m²)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>屋根</th> <th>外壁</th> <th>内壁</th> <th>床</th> <th>積載</th> <th>仕様の例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軽い建物</td> <td>0.95</td> <td>0.75</td> <td>0.20</td> <td>0.60</td> <td>0.60</td> <td>屋根：屋根スレート葺 外壁：ラスモルタル塗り 内壁：石膏ボード張り</td> </tr> <tr> <td>重い建物</td> <td>1.30</td> <td>1.20</td> <td>0.20</td> <td>0.60</td> <td>0.60</td> <td>屋根：桟瓦葺 外壁：土塗壁 内壁：石膏ボード張り</td> </tr> <tr> <td>非常に重い建物</td> <td>2.40</td> <td>1.20</td> <td>0.45</td> <td>0.60</td> <td>0.60</td> <td>屋根：土塗き瓦葺き 外壁：土塗壁 内壁：土塗壁</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 2px dashed red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 入力制限 <p>単位重量：正の値 階高 : 2.0 m以上3.5 m以下 建物高さ : (平屋) 3.0 m以上9.0 m以下 (2階建) 3.0 m以上11.0 m以下</p> </div>		屋根	外壁	内壁	床	積載荷重	階高[m]	2階	0	0	0	0	0	0	1階	0	0	0			0		屋根	外壁	内壁	床	積載	仕様の例	軽い建物	0.95	0.75	0.20	0.60	0.60	屋根：屋根スレート葺 外壁：ラスモルタル塗り 内壁：石膏ボード張り	重い建物	1.30	1.20	0.20	0.60	0.60	屋根：桟瓦葺 外壁：土塗壁 内壁：石膏ボード張り	非常に重い建物	2.40	1.20	0.45	0.60	0.60	屋根：土塗き瓦葺き 外壁：土塗壁 内壁：土塗壁
	屋根	外壁	内壁	床	積載荷重	階高[m]																																												
2階	0	0	0	0	0	0																																												
1階	0	0	0			0																																												
	屋根	外壁	内壁	床	積載	仕様の例																																												
軽い建物	0.95	0.75	0.20	0.60	0.60	屋根：屋根スレート葺 外壁：ラスモルタル塗り 内壁：石膏ボード張り																																												
重い建物	1.30	1.20	0.20	0.60	0.60	屋根：桟瓦葺 外壁：土塗壁 内壁：石膏ボード張り																																												
非常に重い建物	2.40	1.20	0.45	0.60	0.60	屋根：土塗き瓦葺き 外壁：土塗壁 内壁：土塗壁																																												

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

9

4. 現況診断用の劣化度入力（一般診断のみ）

流れ																																															
<p>I. 建物概要の[劣化度]の「現況診断用」をクリック</p> <p>達人診断 達人診断 Ver.2.2.0 ファイル(F) デフォルトに戻す 変化度 CAD Ai法 建物概要 現況診断用 補強診断用 建物名称</p> <p>II. 劣化度入力フォームで劣化点数を入力する ※ 露出した躯体とは... 母屋、桁、柱や束基礎の場合の土台などで、仕上げがなく直接風雨に晒される木造部分</p> <p>† 築10年未満の場合、一部の項目は設定不可 † 「現況診断用」と「補強診断用」の2つに対して入力が必要 † 「補強診断用」の入力方法は p. 27 参照 † 精密診断での劣化はCAD画面で壁毎に編集が可能</p>	<p>II 劣化度入力(現況)</p> <p>例：築10年以上</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>材料、部材等</th> <th>劣化事象</th> <th>存在点数 築10年以上</th> <th>劣化 点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">屋根葺き材</td> <td>金属板 瓦・スレート</td> <td>変退色、さび、さび穴、すれ、めくれがある 割れ、欠け、すれ、欠落がある</td> <td><input type="checkbox"/> 2</td> <td><input type="checkbox"/> 2</td> </tr> <tr> <td>軒・呼び樋 堅樋</td> <td>変退色、さび、割れ、すれ、欠落がある</td> <td><input type="checkbox"/> 2</td> <td><input type="checkbox"/> 2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">外壁仕上げ</td> <td>木製板、合板 窓枠系サイディング 金網サイディング モルタル</td> <td>水浸み痕、こけ、割れ、抜け筋、すれ、腐朽がある こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある 変退色、さび、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある</td> <td><input type="checkbox"/> 4</td> <td><input type="checkbox"/> 4</td> </tr> <tr> <td>露出した躯体</td> <td>水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある</td> <td><input type="checkbox"/> 2</td> <td><input type="checkbox"/> 2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">パルコニー 手すり 壁</td> <td>木製板、合板 窓枠系サイディング 金網サイディング 外壁との接合部</td> <td>水浸み痕、こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある 変退色、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある 外壁面との接合部に亀裂、隙間、縫み、シール切れ、剥離がある 壁面を伝て流れている、または排水の仕組みがない</td> <td><input type="checkbox"/> 1</td> <td><input type="checkbox"/> 1</td> </tr> <tr> <td>床排水</td> <td></td> <td><input type="checkbox"/> 1</td> <td><input type="checkbox"/> 1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">内壁 床</td> <td>一般室 浴室 床面 床下</td> <td>水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある 目地の亀裂、タイルの割れがある 水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある 傾斜、過度の振動、床鳴りがある 傾斜、過度の振動、床鳴りがある 基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある</td> <td><input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2</td> <td><input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>0 0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">劣化度による低減係数(D)</td> <td>1-(劣化点数/存在点数)=</td> <td colspan="2"><input type="button" value="保存して戻る"/> <input type="button" value="保存しないで戻る"/></td> </tr> </tbody> </table> <p>IIの詳細</p> <p>a. 建物に存在する部位の「存在点数」にチェックを入れる b. 該当の劣化事象がある部位の「劣化点数」にチェックを入れる c. 入力後、[保存して戻る]をクリック</p>	部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数 築10年以上	劣化 点数	屋根葺き材	金属板 瓦・スレート	変退色、さび、さび穴、すれ、めくれがある 割れ、欠け、すれ、欠落がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	軒・呼び樋 堅樋	変退色、さび、割れ、すれ、欠落がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	外壁仕上げ	木製板、合板 窓枠系サイディング 金網サイディング モルタル	水浸み痕、こけ、割れ、抜け筋、すれ、腐朽がある こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある 変退色、さび、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4	露出した躯体	水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	パルコニー 手すり 壁	木製板、合板 窓枠系サイディング 金網サイディング 外壁との接合部	水浸み痕、こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある 変退色、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある 外壁面との接合部に亀裂、隙間、縫み、シール切れ、剥離がある 壁面を伝て流れている、または排水の仕組みがない	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	床排水		<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	内壁 床	一般室 浴室 床面 床下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある 目地の亀裂、タイルの割れがある 水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある 傾斜、過度の振動、床鳴りがある 傾斜、過度の振動、床鳴りがある 基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	<input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	合計	0 0			劣化度による低減係数(D)		1-(劣化点数/存在点数)=	<input type="button" value="保存して戻る"/> <input type="button" value="保存しないで戻る"/>	
部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数 築10年以上	劣化 点数																																											
屋根葺き材	金属板 瓦・スレート	変退色、さび、さび穴、すれ、めくれがある 割れ、欠け、すれ、欠落がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2																																											
	軒・呼び樋 堅樋	変退色、さび、割れ、すれ、欠落がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2																																											
外壁仕上げ	木製板、合板 窓枠系サイディング 金網サイディング モルタル	水浸み痕、こけ、割れ、抜け筋、すれ、腐朽がある こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある 変退色、さび、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4																																											
	露出した躯体	水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2																																											
パルコニー 手すり 壁	木製板、合板 窓枠系サイディング 金網サイディング 外壁との接合部	水浸み痕、こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある 変退色、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある 外壁面との接合部に亀裂、隙間、縫み、シール切れ、剥離がある 壁面を伝て流れている、または排水の仕組みがない	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1																																											
	床排水		<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1																																											
内壁 床	一般室 浴室 床面 床下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある 目地の亀裂、タイルの割れがある 水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある 傾斜、過度の振動、床鳴りがある 傾斜、過度の振動、床鳴りがある 基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	<input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2																																											
	合計	0 0																																													
劣化度による低減係数(D)		1-(劣化点数/存在点数)=	<input type="button" value="保存して戻る"/> <input type="button" value="保存しないで戻る"/>																																												

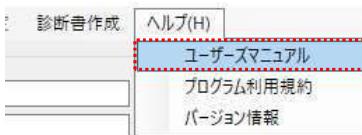
達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

10

5. マニュアル等の表示

流れ

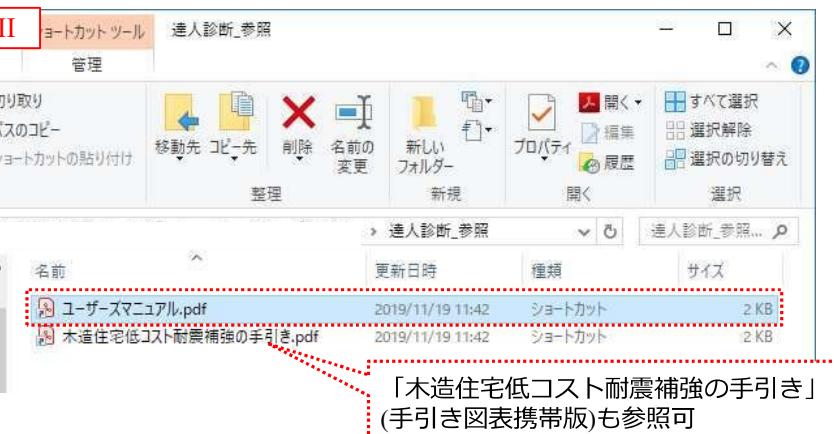
- ## I. 建物概要の[ヘルプ(H)]の「ユーザーズマニュアル」をクリック



- II. ショートカットを収めている
フォルダーが現れるので「ユー
ザーズマニュアル.pdf」をク
リック

- ### III. マニュアルが表示される

達人診斷



「木造住宅低コスト耐震補強の手引き」
(手引き図表携帯版)も参照可

ユーザーズマニュアル目次

1. 概要	p. 3
2. 建物概要フォーム(ファイル操作)	p. 18
3. 建物概要フォーム(データ入力)	p. 26
4. 建物データ(CAD)の入力	p. 34
5. 劣化度入力フォームへの入力	p. 77
6. 診断書の出力	p. 80
7. 補強設計モードへの移行	p. 86
8. 耐震改修設計のための資料	p. 91
付録	p. 96

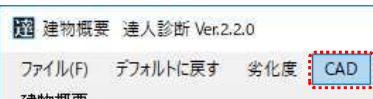
達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

11

6. CAD入力フォームについて

流れ

- ## I. 建物概要の[CAD]をクリックしてCAD入力フォームへ移動



- ## II. CAD入力フォームの構成：

表示メニュー

CAD画面表示に関する設定

入力メニュー

入力する建物要素を選択

操作方法 · 才

建物要素の詳細設定、

み建物要素の状態

AD入力画面

建物要素をここに

データリストビュー

人気済み延

要点 (速報)

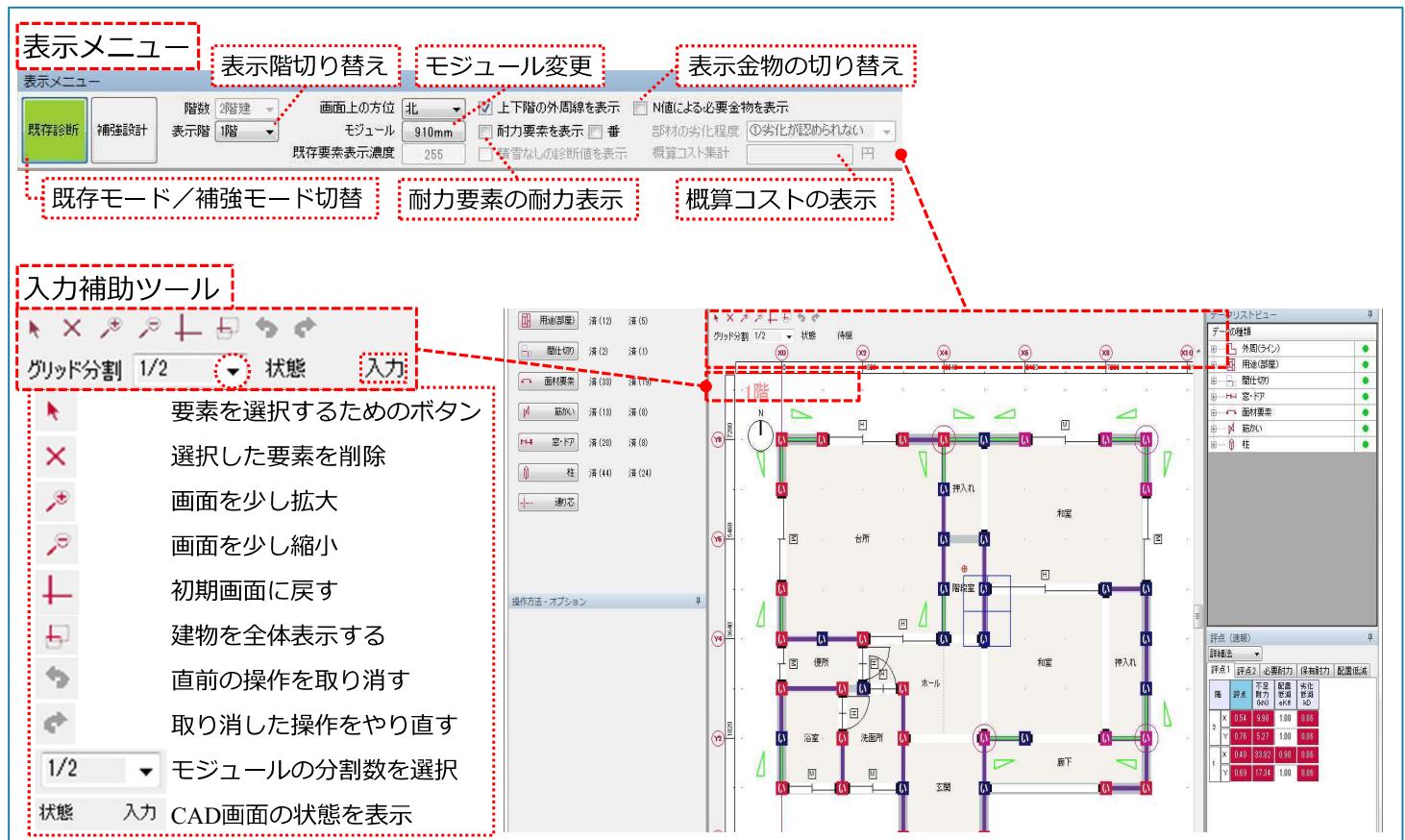
The screenshot displays the CAD input interface with several highlighted features:

- 入力メニュー** (Input Menu) - Located at the top left, this menu includes options like '表示' (Display), '表示オプション' (Display Options), and '操作方法' (Operation Method).
- 表示メニュー** (Display Menu) - Located at the top center, this menu includes '表示' (Display), '表示オプション' (Display Options), and '操作方法' (Operation Method).
- データリストビュー** (Data List View) - Located at the top right, this view shows a list of selected items.
- CAD入力画面** (CAD Input Screen) - The central area of the interface, showing a grid-based drawing environment with a calendar-like layout for inputting boundary points.
- 操作方法・オプション** (Operation Method · Options) - Located at the bottom left, this section provides detailed instructions for using the input methods.
- 画面スクロール** (Screen Scroll) - Located at the bottom right, this section provides instructions for navigating the screen.
- 評点 (速報)** (Scoring (Quick Report)) - Located on the right side, this panel displays a table of scores for different input methods.

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

12

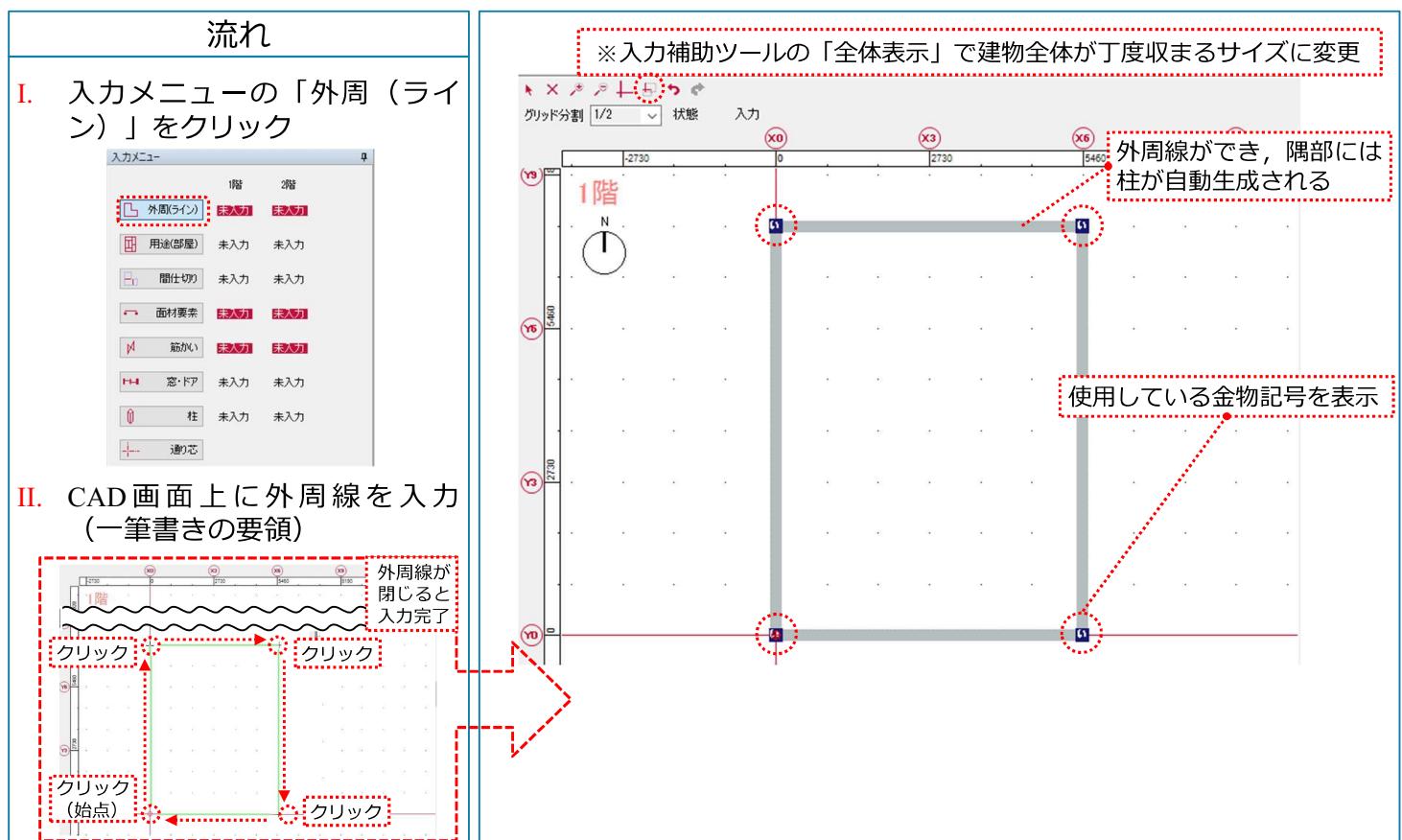
6. CAD入力フォームについて（続き）



達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

13

7. 外周（ライン）の入力



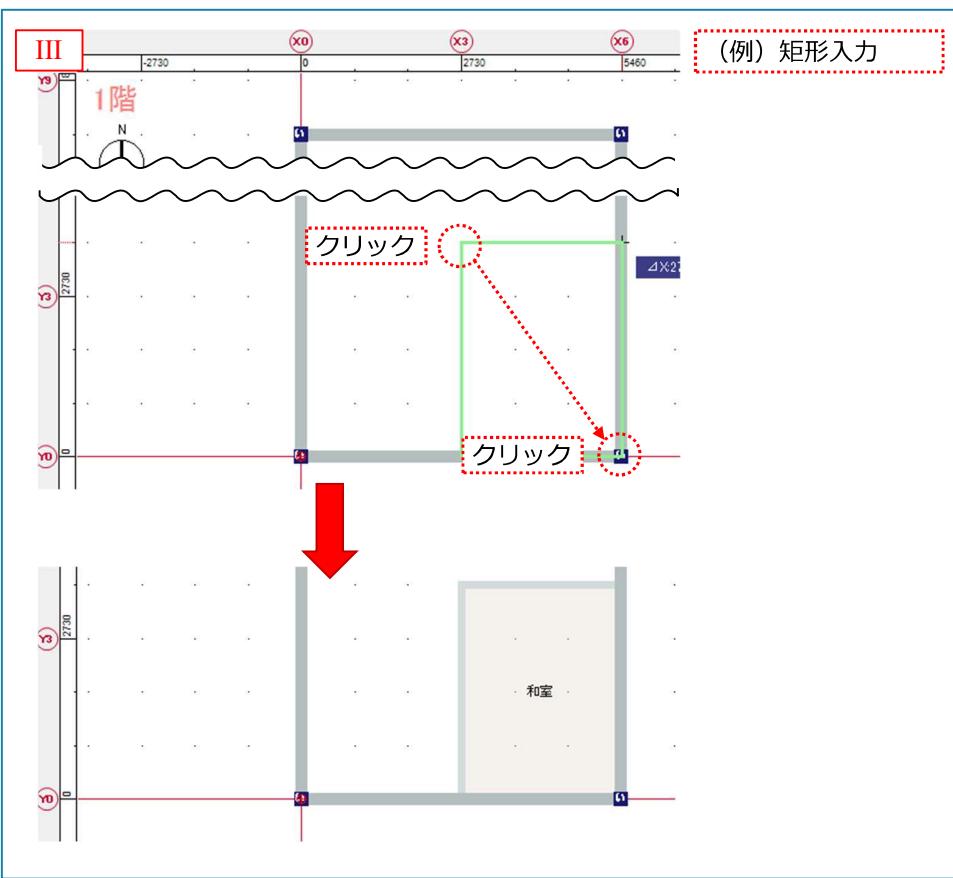
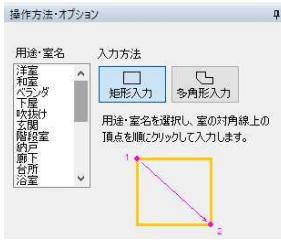
達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

14

8. 用途（部屋）の入力

流れ

- 入力メニューの「用途（部屋）」をクリック
- 用途・室名と入力方法をリストから選択
- CAD画面上に部屋を入力

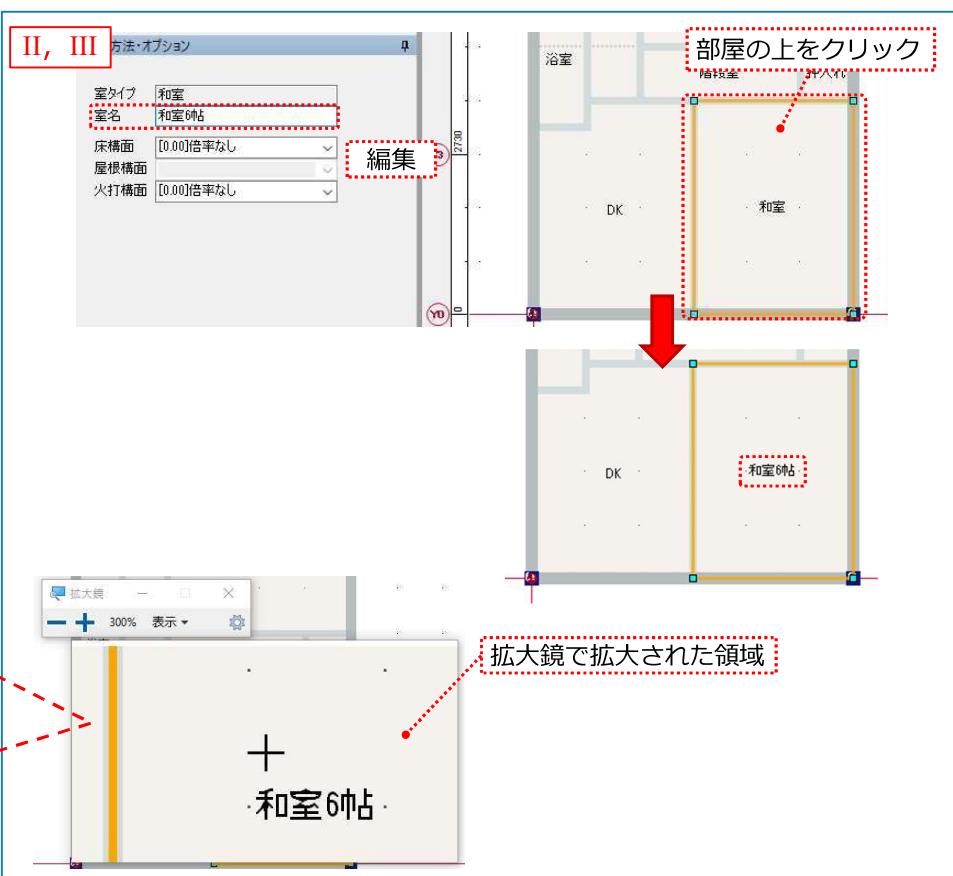
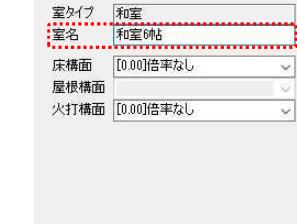


8. 用途（部屋）の入力：室名の変更

流れ

- 入力補助ツールの「選択ツール」をクリック
- 名称を変更したい部屋をクリックして選択
- 操作方法・オプションの「室名」テキストボックスを編集して[Enter]キーを押す

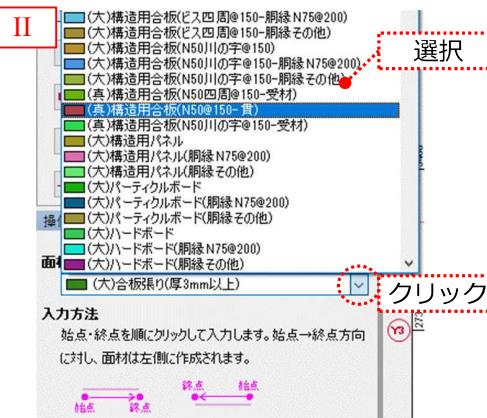
† Windowsの「拡大鏡」を使うと画面の一部を拡大可能（詳細は、Google等の検索エンジンを用い、「windows 拡大鏡」で検索）



9. 面材要素の入力（面材張り壁）

流れ

- I. 入力メニューの「面材要素」をクリック



- II. 「操作方法・オプション」で面材張り壁の種類を選択

- III. CAD画面上に面材壁を入力（始点、終点の2点クリック）

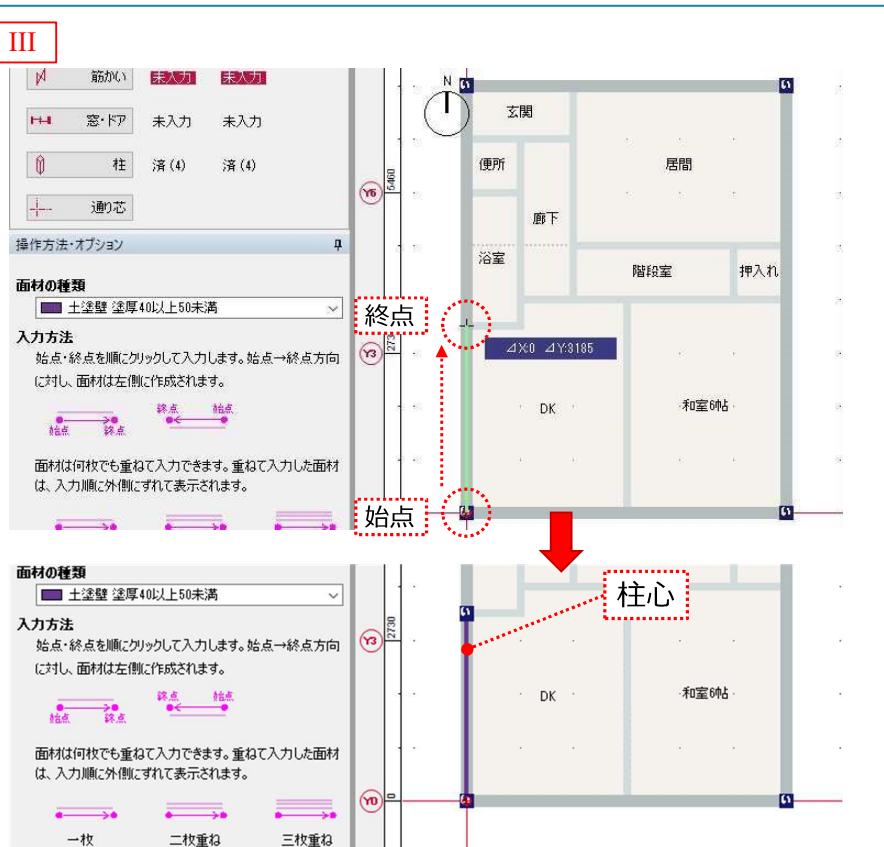
※ 入力方向でCAD表現が変化



9. 面材要素の入力（土塗壁）

流れ

- I. 入力メニューの「面材要素」をクリック



- II. 「操作方法・オプション」で土塗壁の種類を選択

- III. CAD画面上に土壁を入力（始点、終点の2点クリック）

※ 入力方法によるCAD表現の変化なし

10. 筋かいの入力

流れ

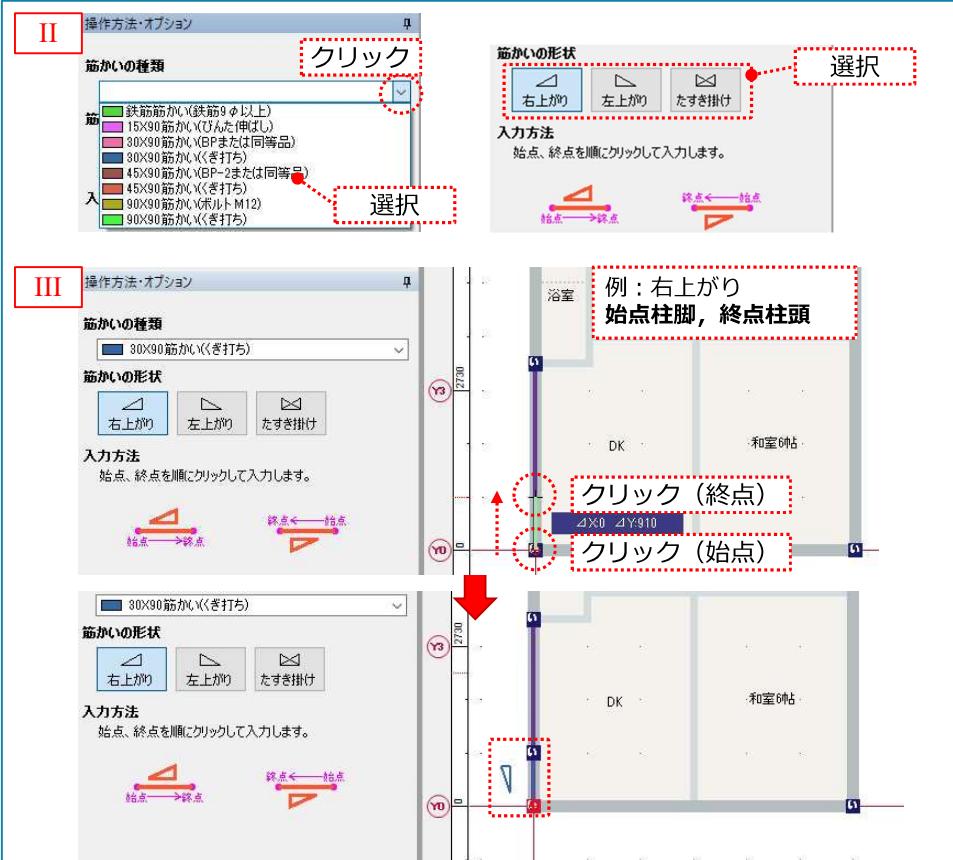
I. 入力メニューの「筋かい」をクリック



II. 「操作方法・オプション」で種類と形状を選択

III. CAD画面上に筋かいを入力 (始点, 終点の2点クリック)

※ 面材と同様、**入力方向でCAD表現が変化**



11. 窓・ドアの入力

流れ

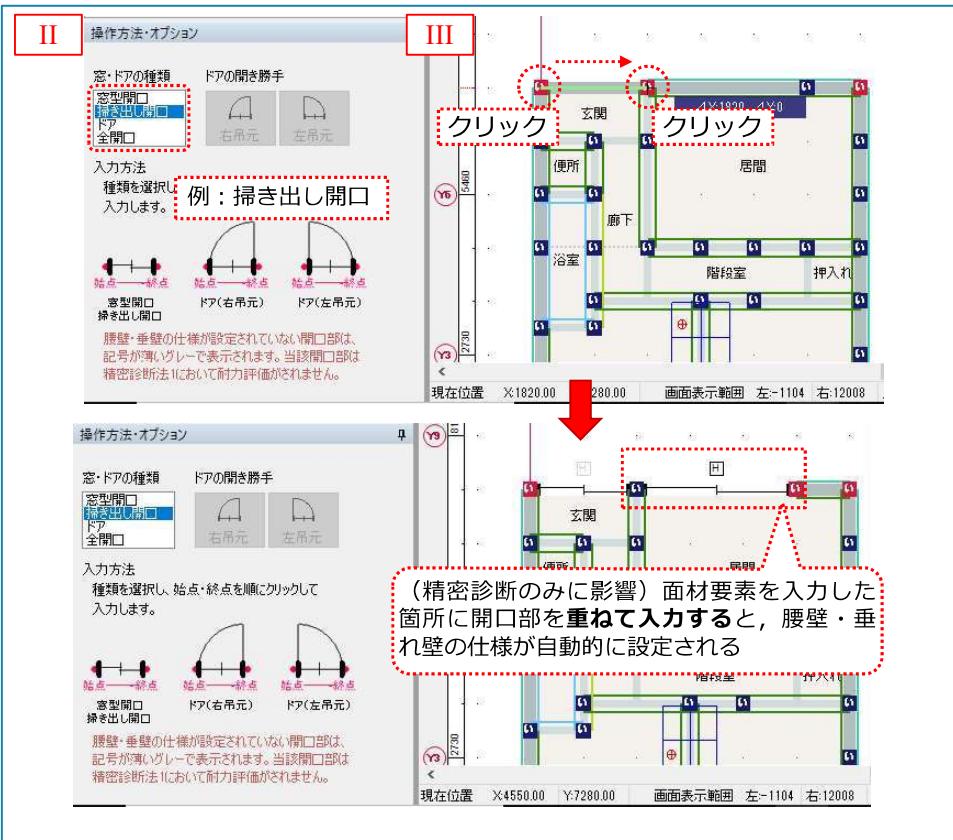
I. 入力メニューの「窓・ドア」をクリック



II. 「操作方法・オプション」で種類・形状を選択

※ ドアの場合は開き勝手も選択

III. CAD画面上に開口部を入力 (始点, 終点の2点クリック)



11. 窓・ドアの入力（垂壁・腰壁の仕様編集）

流れ

- I. 入力補助ツールの「選択ツール」をクリック



- II. 壁仕様を変更したい開口部をクリック

- III. 「操作方法・オプション」の「壁構成」タブで、垂壁・腰壁の仕様を編集



達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

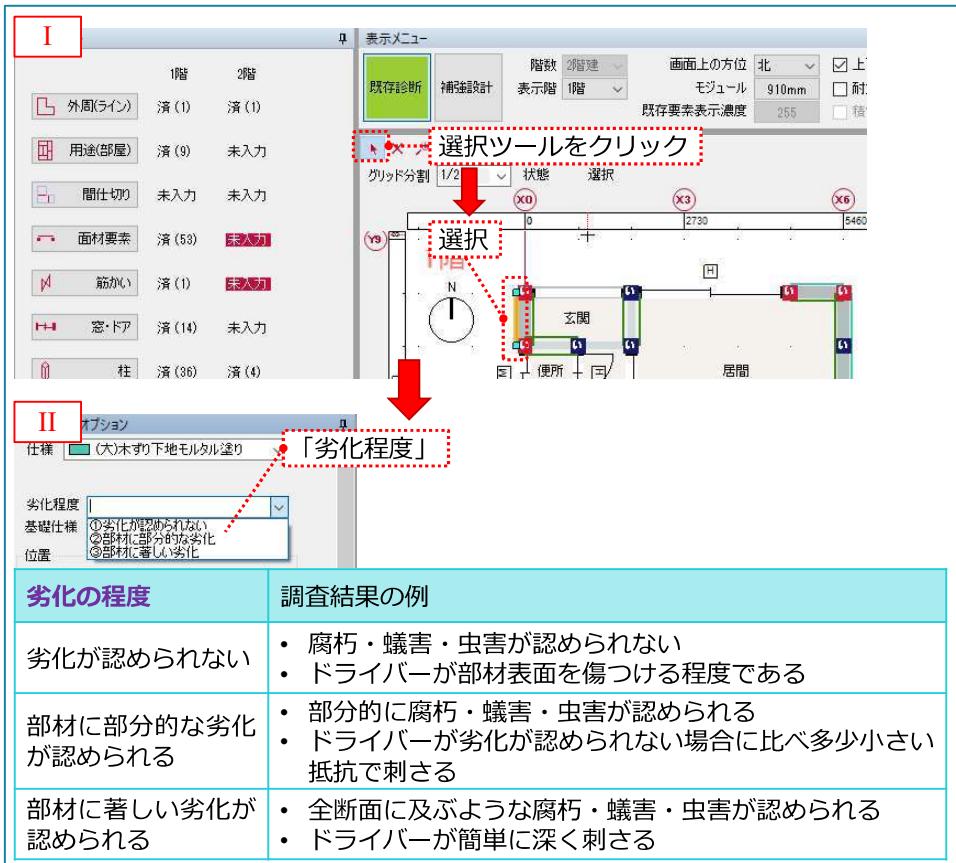
21

12. 壁の劣化程度の変更（精密診断のみ）

流れ

- I. 選択ツールをクリックし、耐力要素（面材・筋かい・開口部）をクリックして選択

- II. 操作方法・オプションで劣化の程度を変更



達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

22

13. 柱の入力

流れ

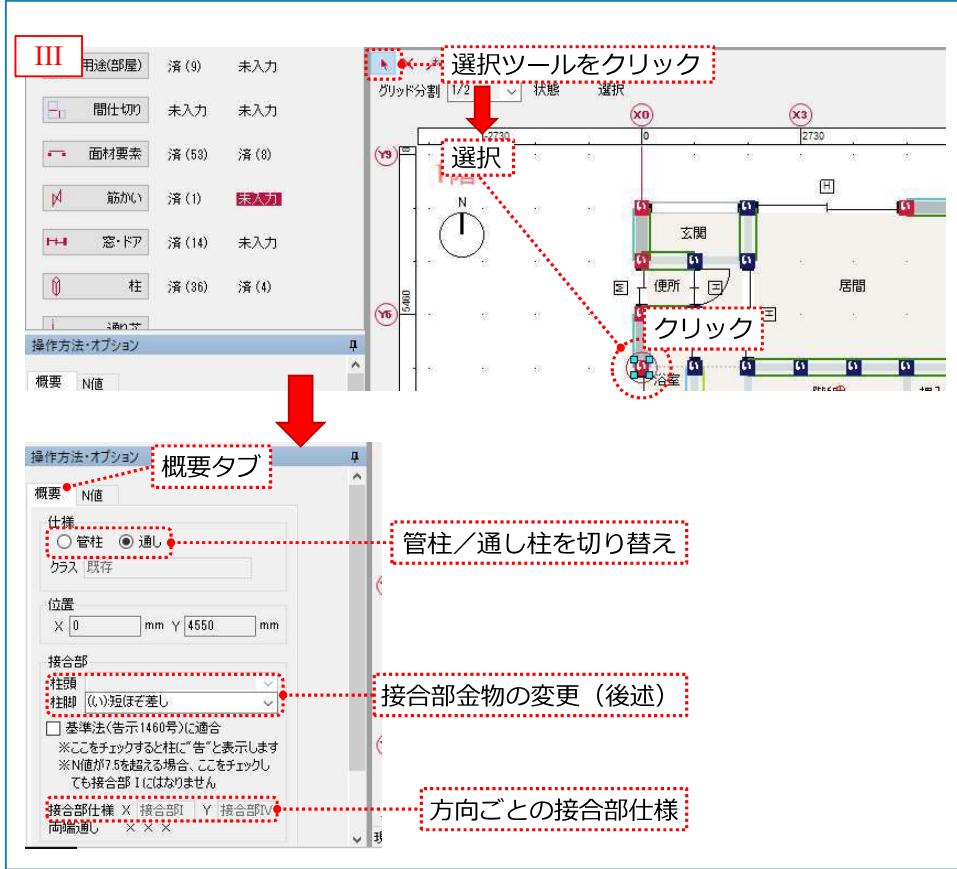
- I. 入力メニューの「柱」をクリック



- II. CAD画面上をクリックして柱を入力

- III. 管柱から通し柱への変更：柱を選択して操作方法・オプションで「通し」を選択

† 接合部IIIとIVは通し柱の設定により自動判別



14. 耐力要素を表示

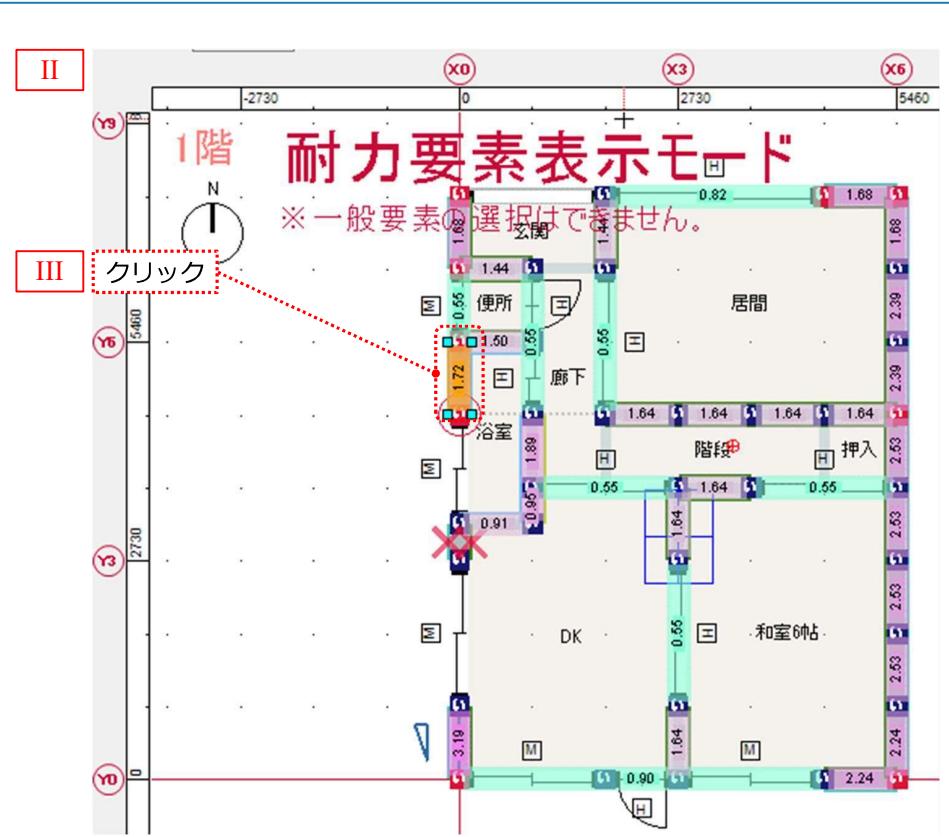
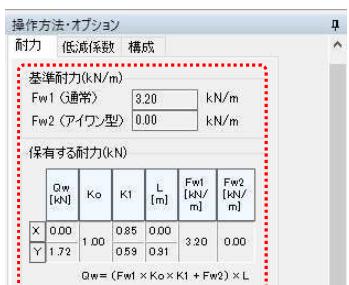
流れ

- I. CAD入力フォームの表示メニューの「耐力要素を表示」にチェックを入れる

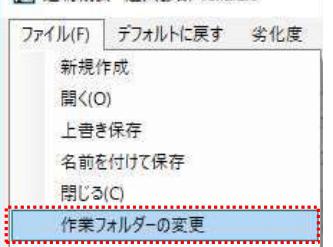
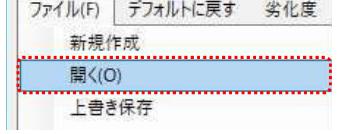


- II. 耐力要素が強調され、各要素の耐力が表示される

- III. 要素をクリックすると「操作方法・オプション」に耐力の計算過程などが表示される



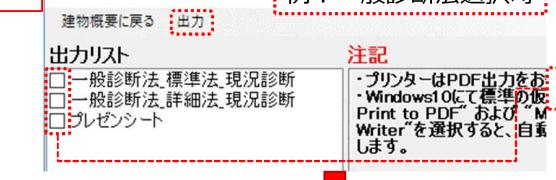
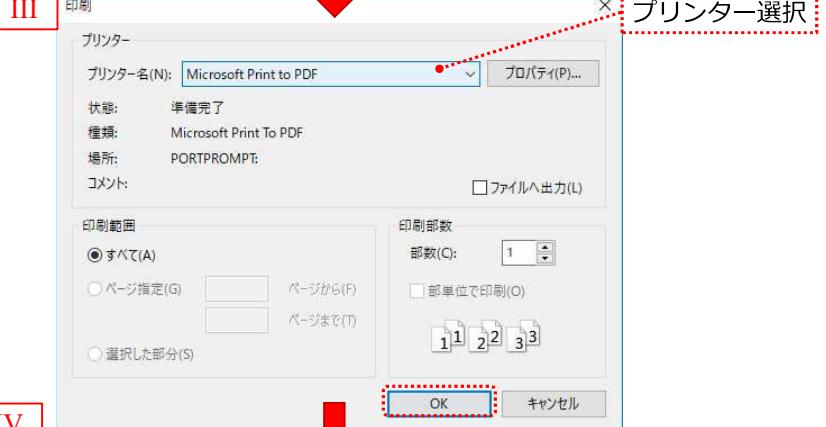
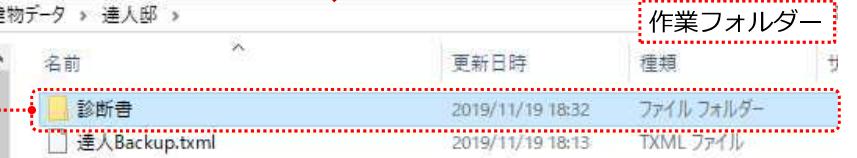
15. 過去に保存した建物ファイルを開く場合

流れ	
I. 「メインフォームへ戻る」で建物概要フォームに戻る	
※ 作成したファイルの保存を忘れないでください。	
※ 補強設計は元の建物ファイルをコピーし、そこで行うとよい	
II. ファイルメニューの「作業フォルダーの変更」で、作業フォルダーを過去に保存した建物ファイルが入っているフォルダーに変更する	 A red arrow points down from the 'File' menu to a 'Select Folder' dialog box. The 'Working folder' dropdown is set to '選人部' (Entrance Department). A red dotted line highlights the 'Entrance Department' folder in the list, and another red dotted line highlights the 'OK' button at the bottom right.
III. ファイルメニューの「開く」で建物ファイルを開く	

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

25

16. 診断書の出力（製品版のみ）

流れ	
I. 建物概要フォームに戻り入力メニューの診断書作成をクリック	
化度 CAD Ai法_重量と高さの設定	
II. 「診断書出力ダイアログ」で出力する診断書にチェックを入れて出力をクリック	
III. 「印刷ダイアログ」で以下の仮想プリンターを選択	
IV. 作業フォルダー内に「診断書」フォルダーが作成され、診断書はその中に作成される	

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

26

16. 診断書の出力：出力結果例

表紙

達人診断 Ver. 2.2.0
シリアル:

(一財)日本建築防災協会
2012年改訂版『木造住宅の耐震診断と補強方法』 準拠

「一般診断法 方法1」による耐震診断
現況診断

プログラム名: 達人診断 Ver. 2.2.0(詳細法)
シリアル:

N.0通り (N値構面図)

	Y0.0	Y1.0	Y2.0	Y3.0	Y3.5	Y4.0	Y5.0	Y6.0	Y7.0	Y8.0
A2	1.42	0.00	0.00	0.00	0.00	1.42				
B2	0.80	0.50	0.50	0.50	0.50	0.80				
A2×B2	1.14	0.00	0.00	0.00	0.00	1.14				
1階からの軸力										
L	0.40	0.60	0.60	0.60	0.60	0.40				
2階N	0.75	-0.60	-0.60	-0.60	-0.60	0.75				
柱頭接合部	A	A	A	A	A	A				
柱脚接合部	A	A	A	A	A	A				
接合部仕様	III	I	I	I	I	III				
A1	1.89	2.89	0.00	0.00	1.42	1.42	1.42	1.42		
B1	0.80	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.80	
A1×B1	1.51	1.45	0.00	0.00	0.71	0.71	0.71	0.71	1.14	
上階からの軸力	1.14					1.14				
L	1.00	1.60	1.60	1.60	1.60	0.60	0.60	0.60	0.40	
1階N	1.67	-0.16	-1.60	-1.60	-1.60	0.26	0.12	0.12	0.75	
柱頭接合部	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
柱脚接合部	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
接合部仕様	III	I	I	I	III	IV	IV	IV	IV	

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

27

17. 補強診断用の劣化度入力（一般診断のみ）

流れ

- I. 建物概要フォームへ戻り、劣化度メニューの「補強診断用」をクリック
- II. 「現況診断のコピー」をクリックし、存在点数と劣化点数をコピーする
- III. 補強により取り除ける劣化事象に対しては、劣化点数のチェックを外して「保存して戻る」をクリック

[達人塾課題]-[達人部.txtml]
メインフォームへ戻る 上書き保存 表示(V)
入力メニュー

ファイル(F) デフォルトに戻す 劣化度 CAD AI法
建物概要 現況診断用
建物名称 達人部 補強診断用

II 劣化度入力(補強)

部位		材料、部材等	劣化事象	存在点数 築10年以上	劣化 点数
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、すれ、めくれがある 割れ、欠け、すれ、欠落がある	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
	瓦・スレート	変退色、さび、割れ、すれ、欠落がある	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、すれ、欠落がある	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
	豎樋	水浸み痕、こけ、割れ、抜け筋、すれ、腐朽がある こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4	
外壁仕上げ	木製版、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け筋、すれ、腐朽がある こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4	
	窓業系サイディング 金属サイディング モルタル	変退色、さび、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある	<input checked="" type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4	
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、嫌道、嫌害がある	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
バルコニー	手すり 壁	水浸み痕、こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある こけ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	
	床排水	変退色、さび、さび穴、すれ、めくれ、目地空き、シール切れがある 外壁面との接合部に亀裂、隙間、縫み、シール切れ、剥離がある	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	
内壁	一般室	壁面を傷つけて流れている、または排水の仕組みがない	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	
	浴室	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある 目地の亀裂、タイルの割れがある	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
床	タイル壁	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、嫌害がある	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
	タイル以外	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
床下	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	
	廊下	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、嫌道、嫌害がある	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	
		合計	21	4	
劣化度による低減係数 (D)		1 - (劣化点数 / 存在点数) =	0.81	*	
現況診断での劣化低減係数が0.90未満の場合、補強設計での劣化低減係数の上限は0.90		保存して戻る	保存しないで戻る		

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

28

18. 補強モードへの移行

流れ

- I. CAD入力フォームへ移動

達人診断 達人診断 Ver.2.2.0
ファイル(F) デフォルトに戻す 劣化度 CAD

既存診断 検索

II. 表示メニューの「補強設計」をクリック

III. 「注意ダイアログ」が表示されるので、[OK]をクリック

注意

 - 「補強設計」モードに移行します。
 - 現在の入力が「既存建物」として登録されます。
 - 「補強設計」モードでの入力・削除は補強要素として登録されます。
 - 壁の補強枚数の目安

X方向 Y方向
1階 4枚
2階 1枚 2枚

※ 4kN/mの壁として換算
※ パランスの改善を前提

OK
- IV. 「補強設計」モード

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

29

19. 補強時の耐力要素の入力：A工法

流れ

- I. 補強設計モードでA工法の面材要素を選択

入力メニュー

	1階	2階
外周(ライン)	済(1)	済(1)
用途(部屋)	済(9)	未入力
間仕切	未入力	未入力
面材要素	済(50)	済(0)
筋かい	済(1)	未入力
窓・ドア	済(14)	未入力
柱	済(36)	済(4)
通り芯		

操作方法・オプション

面材の種類

補強時の面材要素リスト
(A工法が表示される)

面材は何枚でも重ねて入力できます。重ねて入力した面材は、入力順に左側に表示されます。

一枚 二枚重ね 三枚重ね
- II. 選択した要素を既存診断時と同様の手順で入力（→9節）

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

30

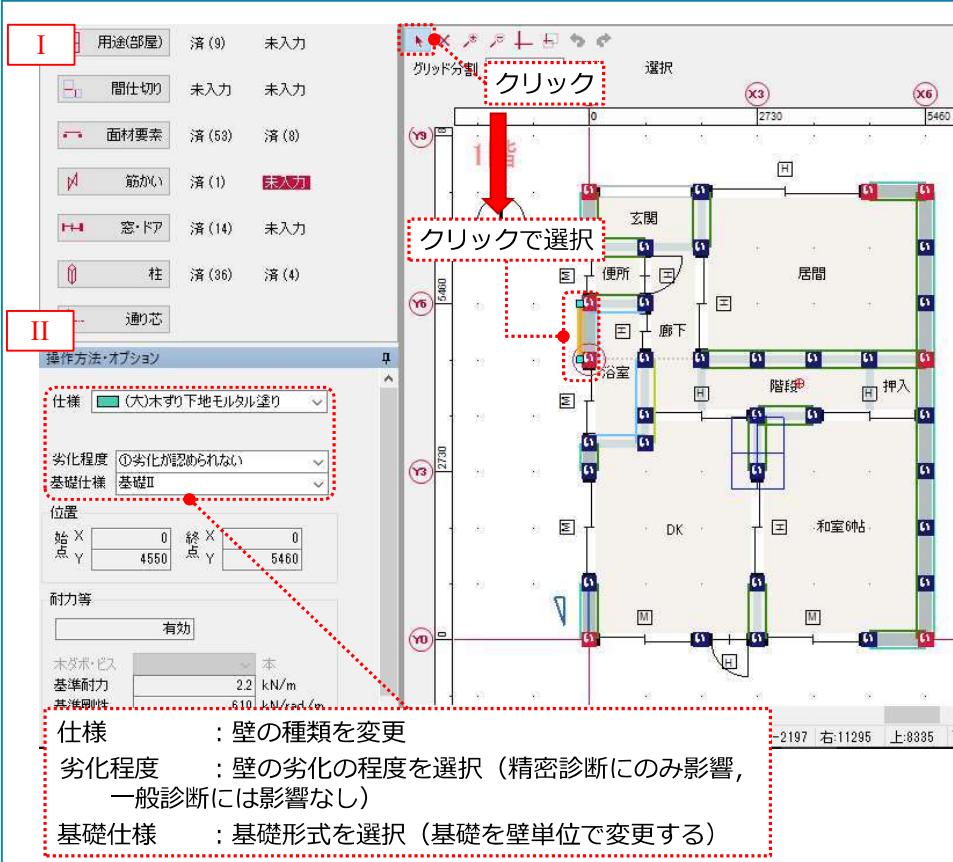
20. 耐力要素の仕様変更

流れ

- I. 仕様変更する耐力要素を選択
- II. 「操作方法・オプション」で仕様等を変更

土壁と筋かいが重なっていて、土壁を選択できない場合の対処法

1. 「データリストビュー」の「筋かい」右にある緑のボタンを左クリック（ボタンを赤色にする）
2. 筋かいが**非表示**になるので、その状態で土壁をクリック
3. 土壁の編集が終わったら、ボタンをもう一度左クリックして表示を元に戻す



達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

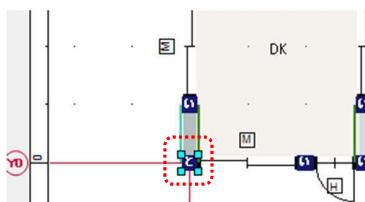
31

21. 柱接合部の補強：個別選択

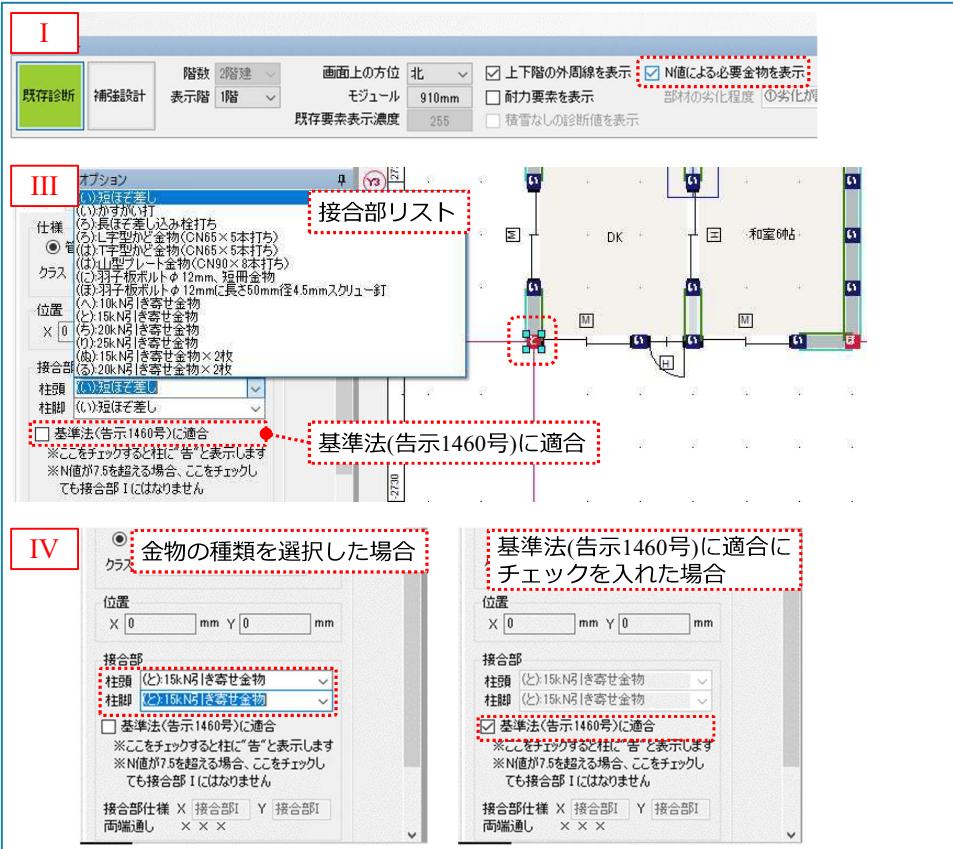
流れ

- I. 表示メニューの「N値による必要金物を表示」にチェックを入れ、必要金物を確認する
- II. 接合部仕様を変更する柱を選択
- III. 操作方法・オプションの「概要タブ」でいずれかを行う
 - a. 接合部リストから金物の種類を選択
 - b. 「基準法(告示1460号)に適合」にチェック

- IV. 柱接合部仕様が変化すると、柱の色が変化する



※ 壁両端の柱の接合部仕様が“I”になると、低減係数が大きくなり壁の耐力が上昇

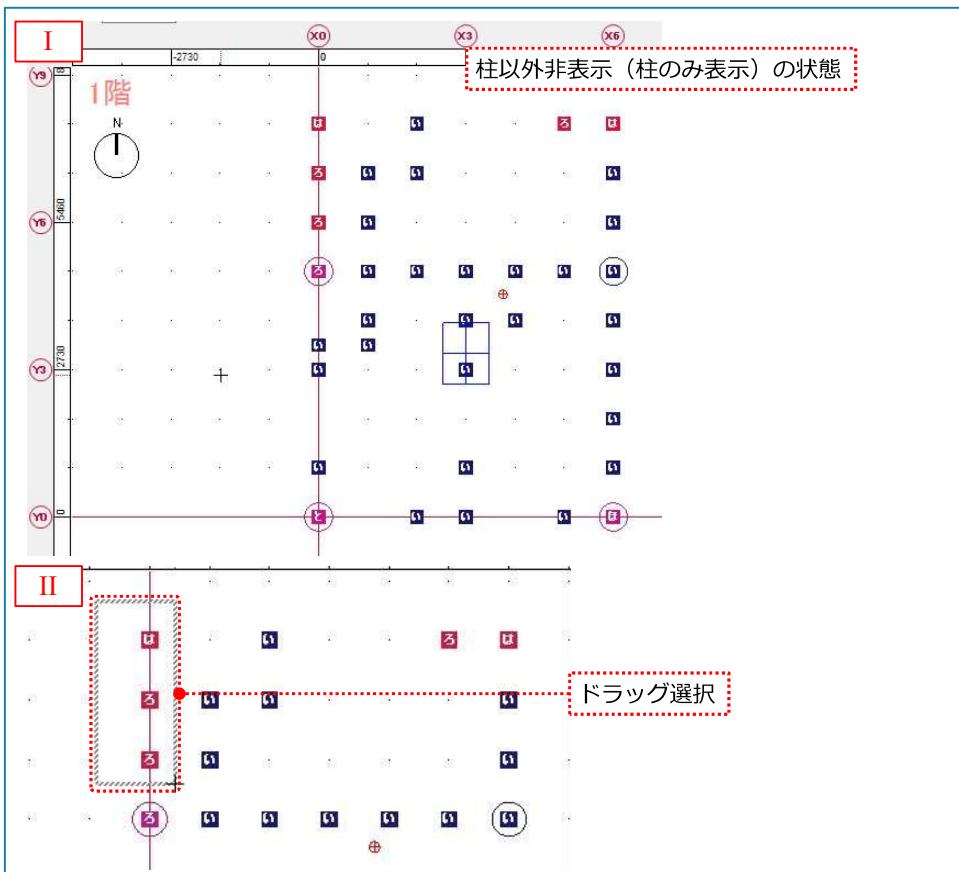


達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

32

21. 柱接合部の補強：一括選択

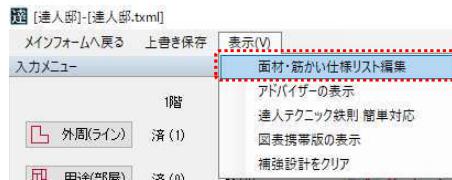
流れ	
I.	データリストビューの「柱」のボタンを右クリック：柱以外を非表示にする  右クリックで青くする
II.	補強する柱をドラッグ選択または[Shift]キーを押しながら選択
III.	操作方法・オプションの「概要タブ」でいずれかを行う： a. 接合部リストから金物の種類を選択 b. 「基準法(告示1460号)に適合」にチェック

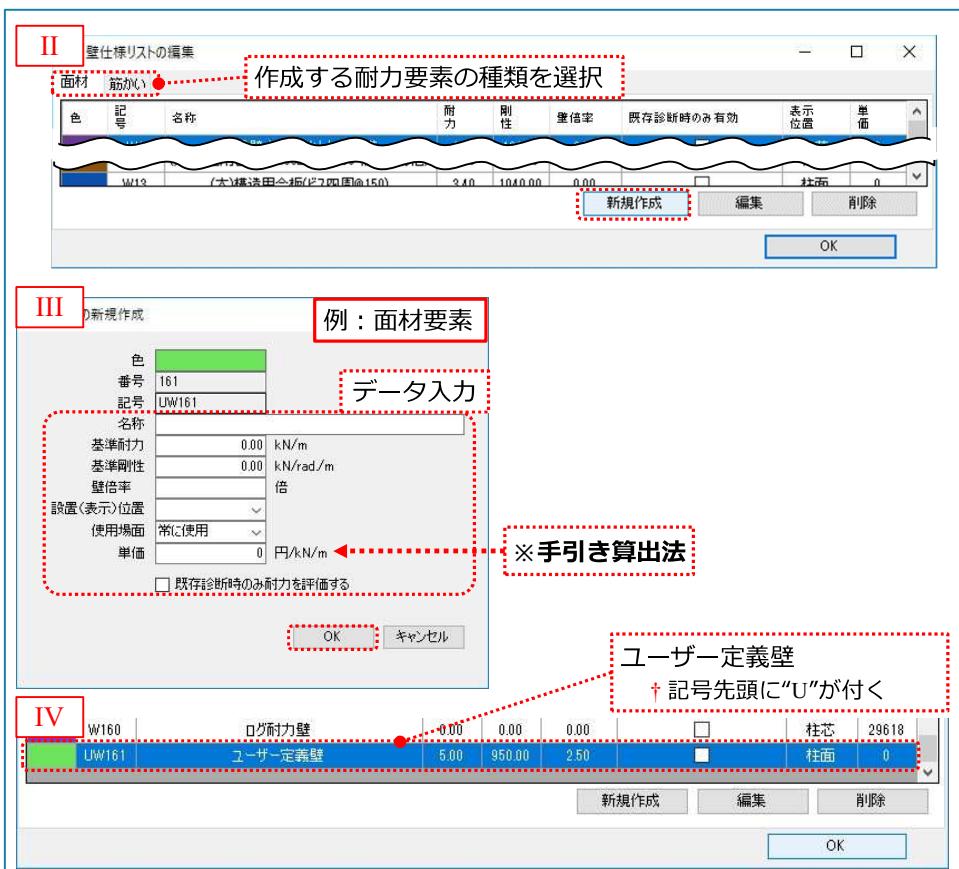


達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

33

22. 耐力要素のユーザー定義

流れ	
I.	CAD入力フォームのメニュー「表示」の「面材・筋かいリスト編集」をクリック 
II.	「壁仕様リストの編集ダイアログ」で「新規作成」をクリック
III.	「新規作成ダイアログ」にデータを入力してOKをクリック
IV.	「壁仕様リストの編集ダイアログ」に作成した壁が追加される
開口部の補強方法 開口部（垂壁・腰壁）の補強は以下のようにして行う： 面材要素または筋かいを既存開口部に重ねて入力する ※ 既存開口部の耐力・剛性は0として扱われる	



達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

34

23. 特殊な補強要素の入力 その1：アイワン

流れ

- I. 入力メニューの「筋かい」をクリック
- II. 「操作方法・オプション」のリストでアイワンを選択



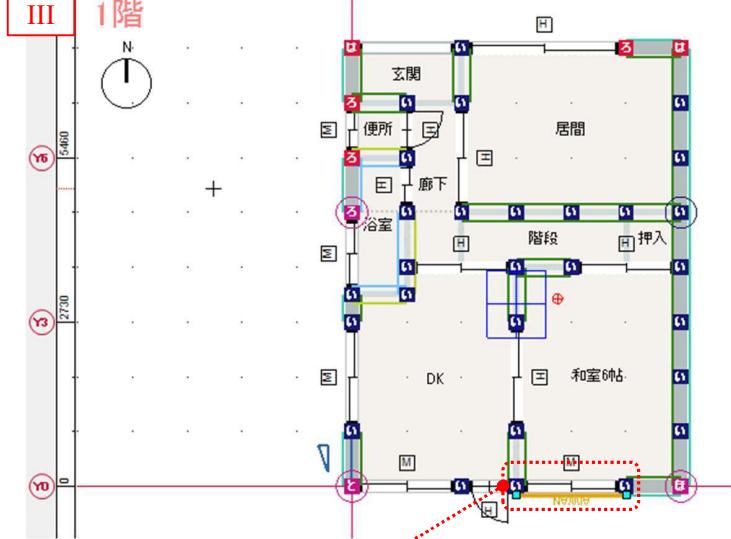
操作方法・オプション

筋かいの種類

- アイワン 偏心小芯すれ1/2以下
- アイワン 偏心大芯すれ1/2以上
- アイワン 偏心大芯すれ1/2以下
- アイワン 偏心大芯すれ1/2以上
- 鉄筋筋かい(標準偏心)
- 30×90筋かい(BPまたは同等品)
- 45×90筋かい(BPまたは同等品)
- 90×90筋かい(ボルト M12)

アイワン：補強専用の耐力要素

III. CAD画面上にアイワンを入力



操作方法・オプション

アイワン型：

耐力 低減係数 構成 接合部仕様が“接合部I”として扱われる要素

基準耐力(kN/m)

Fw1 (標準) 0.00 kN/m

Fw2 (アイワン型) 4.10 kN/m

保有する耐力(kN)

Qw [kN]	Ko	K1	L [m]	Fw1 [kN/m]	Fw2 [kN/m]
X: 6.51	1.00	0.87	1.82	0.00	4.10
Y: 0.00	1.00	0.87	0.00	0.00	4.10

アイワンを選択して入力

※ 補強設計モードでは、耐力要素（面材要素・筋かいとともに）を開口部に重ねて入力できる

※ アイワンの耐力・剛性はスパンにより自動的に変化

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

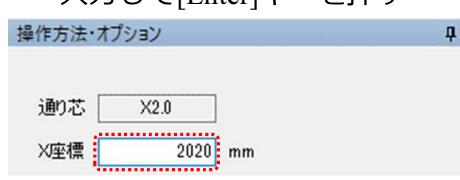
35

23. 特殊な補強要素の入力 その2：ログ耐力壁b

流れ

ログ耐力壁（タイプb）の入力例

- I. “芯ずれ通り芯”を新たに入力：
 - a. 入力メニューの「通り芯」をクリック
 - b. 操作方法・オプションで方向を選択
 - c. CAD画面をクリック
- II. 選択ツールをクリックし、通り芯をクリックして選択
- III. 操作方法・オプションで座標を入力して[Enter]キーを押す



操作方法・オプション

通り芯 X2.0

X座標 2020 mm

既存の芯から 200 mm 内側の位置を入力
例) 1820 + 200 = 2020

(次ページに続く)

I

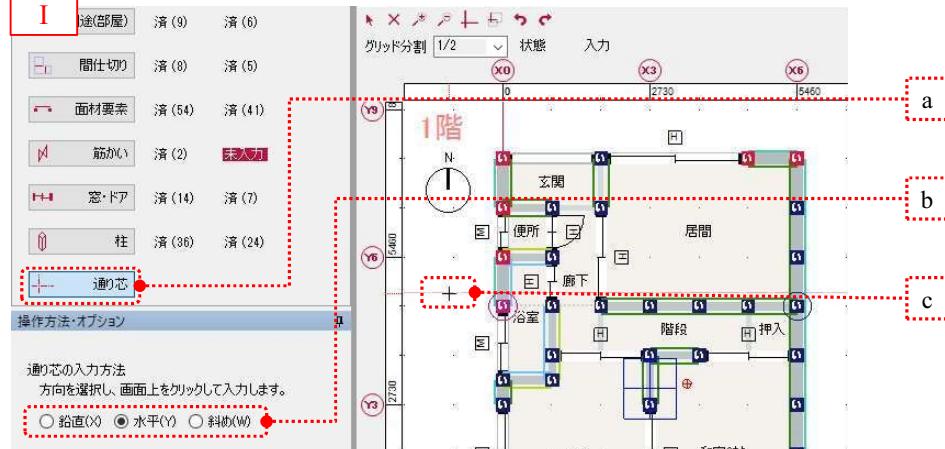
途(部屋)	済 (9)	済 (6)
間仕切り	済 (8)	済 (5)
面材要素	済 (54)	済 (41)
筋かい	済 (2)	未入力
窓・ドア	済 (14)	済 (7)
柱	済 (36)	済 (24)
通り芯	済 (1)	未入力

通り芯の入力方法
方向を選択し、画面上をクリックして入力します。
 鉛直(X) 水平(Y) 斜傾(W)

II

途(部屋)	済 (9)	済 (6)
間仕切り	済 (8)	済 (5)
面材要素	済 (54)	済 (41)
筋かい	済 (2)	未入力
窓・ドア	済 (14)	済 (7)
柱	済 (36)	済 (24)
通り芯	済 (1)	未入力

マウスカーソルを通り芯の上に乗せ、色が変わったらクリック



達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

36

23. 特殊な補強要素の入力 その2 (続き)

流れ

ログ耐力壁 (タイプb) の入力例

IV. 入力メニューの面材要素をクリックし、操作方法・オプションでログ耐力壁を選択

V. 追加した通り芯上にログ耐力壁を入力

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

37

24. 補強要素の強調表示

流れ

I. 補強設計モードにおいて、表示メニューの「既存要素表示濃度」をクリック

II. 表示されるダイアログのスライダーをドラッグして移動し、表示濃度を変更

スライダーを移動して表示濃度を設定してください。

スライダー値の微調整は、キーボード矢印でできます。

数字が小さいほど既存要素の色が薄くなる
値の微調整はキーボードの左右矢印キーで行う

III. 既存要素の色が薄くなり、補強設計要素が強調表示される

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

38

25. 概算コストの表示

流れ

補強設計モードへ移り、単価が設定されている耐力要素を入力
→表示メニューの「概算コスト集計」に結果が反映される

概算コスト集計

評点(連続)	詳細法	評点1	評点2	評点3	評点4	評点5
X	104	—	1.00	0.90		
Y	106	—	1.00	0.90		
X	105	—	1.00	0.90		
Y	103	—	1.00	0.90		

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

39

26. プrezンシートの作成（製品版のみ）

流れ

- I. 建物概要フォームの診断書作成メニューをクリック
- II. 診断書出力ダイアログの「プレゼンシート」にチェックを入れて出力

診断書出力

建物概要に戻る 出力

出力リスト

- 一般診断法_標準法_現況診断
- 一般診断法_標準法_補強設計
- 一般診断法_詳細法_現況診断
- 一般診断法_詳細法_補強設計
- プrezンシート
- 補強工法リスト&概算コスト

注記

- プリ
- Wri
- Print
- Write
- しまさ

プレゼンシート：補強前後での主要診断値の違いを比較する資料

補強計画書(案)

◆図面

「耐震診断」(左)：既存診断時の平面図

「補強設計」(右)：補強設計時の平面図

◆診断結果

耐震診断(簡易法)				耐震診断(詳細法)				補強設計(詳細法)					
階	方	必要耐力	既存耐力	階	方	必要耐力	既存耐力	階	方	必要耐力	既存耐力		
1	X	13.18	4.70	0.35	X	14.17	8.65	0.61	*	X	14.17	17.60	1.24
	Y	13.18	10.86	0.82	Y	14.17	15.89	1.30	○	Y	14.17	25.52	1.30
2	X	43.56	8.07	0.16	X	23.55	9.34	0.27	*	X	33.55	35.40	1.05
	Y	43.56	10.91	0.45	Y	33.55	19.40	0.57	*	Y	33.55	51.56	1.51

左：既存診断(標準法)での主要診断値

中：既存診断(詳細法)での主要診断値

右：補強設計(詳細法)での主要診断値

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

40

27. 概算コスト資料の作成 (製品版のみ)

流れ

- I. 建物概要フォームの診断書作成メニューをクリック
- II. 診断書出力ダイアログの「補強工法リスト&概算コスト」にチェックを入れて出力

診断書出力

建物概要に戻る 出力

出力リスト

<input type="checkbox"/> 一般診断法_標準法_現況診断	・プリ
<input type="checkbox"/> 一般診断法_標準法_補強設計	・Wir
<input type="checkbox"/> 一般診断法_詳細法_現況診断	Prin
<input type="checkbox"/> 一般診断法_詳細法_補強設計	Writ
<input type="checkbox"/> プレゼンシート	しま!
<input checked="" type="checkbox"/> 補強工法リスト&概算コスト	

注記

補強工法リスト&概算コスト : 補強設計にかかるコスト概算を示す資料

補強工法リスト&概算コスト

建物名称 : 達人邸
診断依頼者: 達人太郎・花子様

【補強工法リスト】

補強工法	工事単価 [円/kN]	壁基準耐力 [kN/m]	壁長さ [m]	箇所数	小計 [円]
A-i35 真壁上下あき(アルミ材下地)	¥18,002	× 4.160	× 0.910	×	4 = ¥272,592
A-S12 土壁(隅欠け)塗厚50以上 (70未満)		× 2.240	× 0.910	×	3 =
A-S13 土壁(隅欠け)塗厚50以上 (70未満)		× 1.680	× 0.910	×	1 =
ログ耐力壁	¥29,618	× 7.580	× 1.620	×	1 = ¥363,697
30X90筋かい(BPまたは同等品)		× 2.400	× 0.910	×	1 =
アイロン_偏心小芯ずれ1/2以下	¥25,859	× 4.090	× 1.820	×	2 = ¥385,920
					集計 ¥1,022,209

† 金物補強は小額であるためここには含まれていない
 † コストはあくまでも「補強工事費の目安」であり、この一覧表を参考に正式見積りを行うこと
 † 工事単価は「減災協手引き」内の値